



昨年11月、令和元年度都城市スポーツ賞表彰式で、特別賞受賞の中村さん

昨年3月に、北ヨーロッパのエストニア共和国で開催された「第1回世界ろう室内陸上競技選手権大会」の女子1、500メートル個人種目で、都城市さくら聴覚支援学校高等部3年生の中村美月さん（当時2年生）が、日本代表として見事7位入賞を果たしました。

世界各国から選抜された聴覚に障害のある代表選手らが、各種目の世界一を競う同大会に、日本からは、9種目16選手がエントリー。「大会前は合同合宿もあり、出場できる喜びと同時に日本代表としてのプレッシャーがあった。入賞できて本当にうれしい」と、笑顔を見せる中村さん。

中村さんが陸上競技に出会った

Smiling faces of miyakonojo

人の風景

のは、小学6年生の時。体育の授業で走る楽しさを知り、同校中学部に入学すると迷わず陸上部に入部しました。

「とにかく走るのが好き」と話す中村さんは、勉強と両立しながら練習に励み、高等部2年生の時には、陸上部主将を務める傍ら、生徒会副会長の大役も果たしました。

しかしこの時期、世界大会選抜のプレッシャーと足の負傷により、初めて走ることを苦痛に感じ、「思うように走れず、走ることがいやになった」と振り返ります。

それでも、支えてもらっていた家族や同級生、顧問の先生に恩返しをしたい一心で練習を重ね、壁を乗り越え、アスリートとして成長することができました。

「何事にも手を抜かない頑張り屋。前向きで笑顔を絶やさず、部員やクラスメイトに慕われる存在」と話すのは、陸上部顧問。中村さんは、昨年5月に陸上部を引退してからも週4回、グラウンドで、筋力を付けるためのスピードトレーニングなど一人黙々と自主練習に励んできました。

今春、6年間陸上に打ち込んだ同校を卒業し、遠方の大学へ進学する中村さん。大学でも陸上競技

を続け、「親元を離れて生活する不安もあるが、もっと練習して、結果を残したい」と意気込みを見せます。

そして、これまでの実績が認められ、東京2020オリンピック聖火ランナーに選ばれた中村さん。「夢のような出来事でびっくり。この貴重な経験を心に刻みながら、沿道の人々が笑顔になれるよう一生懸命走りたい」と、笑顔を見せていました。



第1回世界ろう室内
陸上競技選手権大会
女子1,500メートル 7位

みつき
中村 美月 さん

(さくら聴覚支援学校高等部3年)

世界大会入賞！

これからの活躍に期待高まる

